



「衛星放送の将来像に関する研究会」
BS民放7局 意見陳述

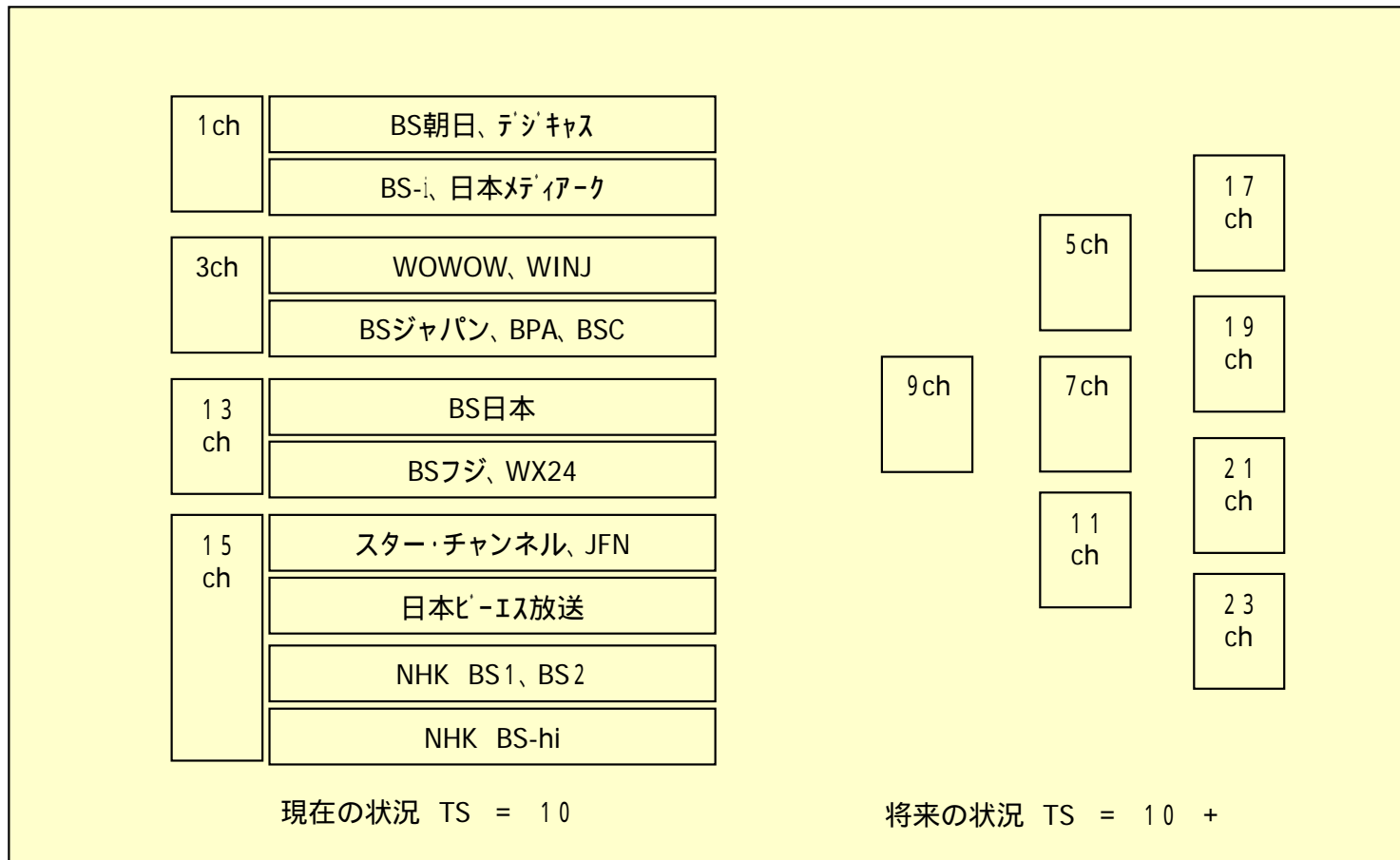
BS日本、BS-i、BSフジ、BS朝日、BSジャパン、
WOWOW、スター・チャンネル

2005年11月30日

技術的既知の問題に関するもの -1

受信可能なTS数の制限

(メモリに起因する制限、情報処理能力に起因する制限)



技術的既知の問題に関するもの -2

・1TSあたりのスロット数の制限

(ケーブルテレビ事業者の送信設備の制限で、1TSが26スロットを超える場合にはTS分割をしない限り再送信が不可能となっている)

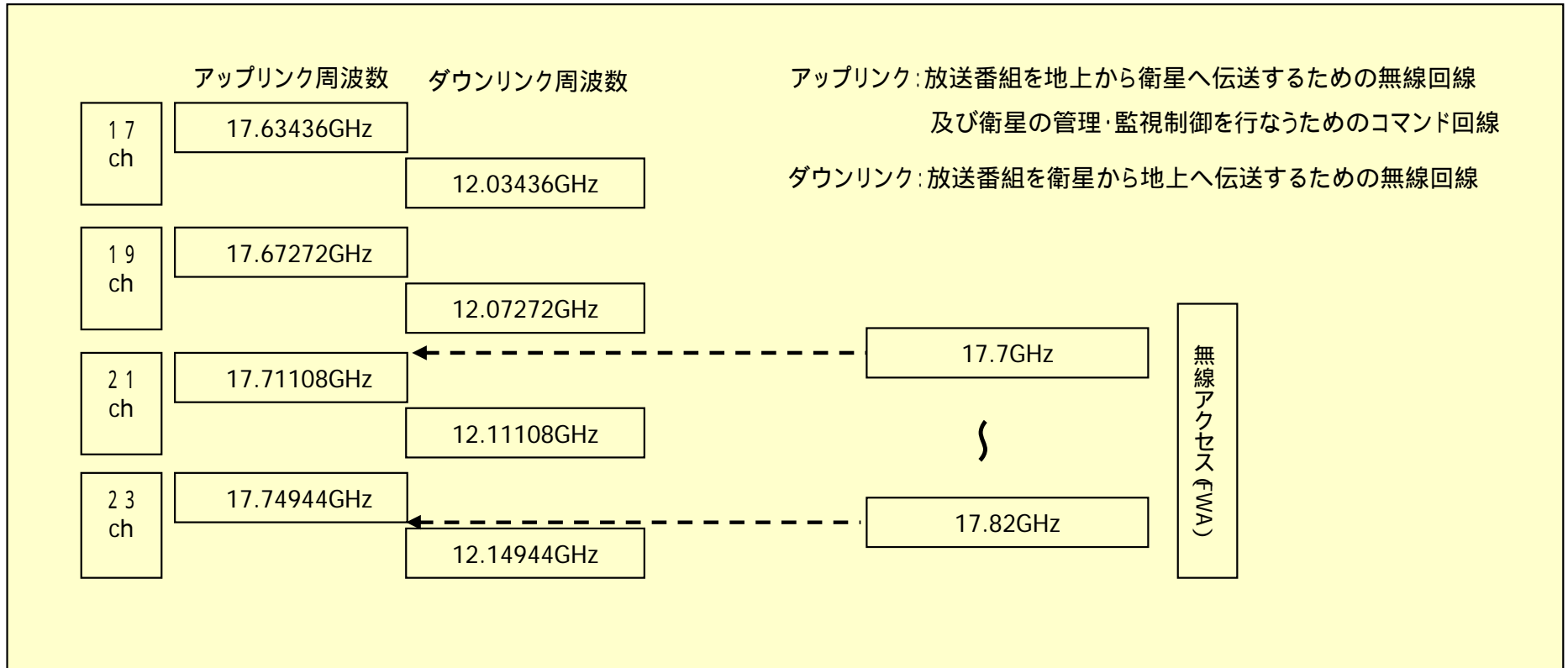
1ch	BS朝日、デジキャスト	24スロット
	BS-i、日本メディアーク	24スロット
3ch	WOWOW、WINJ	23スロット
	BSジャパン、BPA、BSC	25スロット
13ch	BS日本	24スロット
	BSフジ、WX24	24スロット
15ch	スター・チャンネル、JFN	8スロット
	日本ビート放送	4スロット
	NHK BS1、BS2	14スロット
	NHK BS-hi	22スロット

現在のTS毎のスロット数(使用していない帯域を含む)

技術的既知の問題に関するもの -3

追加4チャンネルに於ける既設無線局との周波数共用

(電気通信業務用・公共業務用の固定・移動(無線アクセス(FWA))と周波数を共用しており、共用条件等の検討が必要)



(全国で7局の受信障害対策放送用SHF無線局が運用しており、共用条件等の検討が必要)

技術的既知の問題に関するもの -4

・モアチャンネル受信不能な受信機の存在等

(平成13年3月に、追加4chのための周波数拡大を規格上実施しており、規格対象外の受信機は受信できない可能性有)

(注)モアチャンネルとは、BSアナログ放送終了後の3チャンネル、及び追加4チャンネルを意味する。

これら(-1~-4)に関して早期に現状を把握し、対策を講じるなど、2011年には制限をなくすこと。少なくとも1ch~15chについては、一切の制限をなくすことが望ましい。



新技術に関するもの

(1)BSアナログ放送終了後の3チャンネルについて

現在の技術(MPEG-2、MULTI2)を継続して使用できることを前提とし、
現行方式の受信機で受信できることが望ましい。

(2)追加新4チャンネルについて

新技術の対応を検討する。現時点で検討されうる新技術のみならず2
011年時点での最適、最良の新技術について検討されるべきと考
える。CASに関しては、現状のCASを含めて検討することが望ましい。

以上